

令和7年度介護テクノロジーメーカー連絡会議(主催:テクノエイド協会)

あおもり介護生産性向上相談 センター事業について

期 日:令和7年6月18日(水)

会 場:TOC有明(東京都江東区)

社会福祉法人青森県社会福祉協議会
あおもり介護生産性向上相談センター
所長 青田 俊枝



あおもり
介護生産性向上相談センター

本日のご説明内容

- ① 青森県について
- ② 青森県社会福祉協議会の介護テクノロジー普及の取組
- ③ あおもり介護生産性向上相談センター事業について



青森県

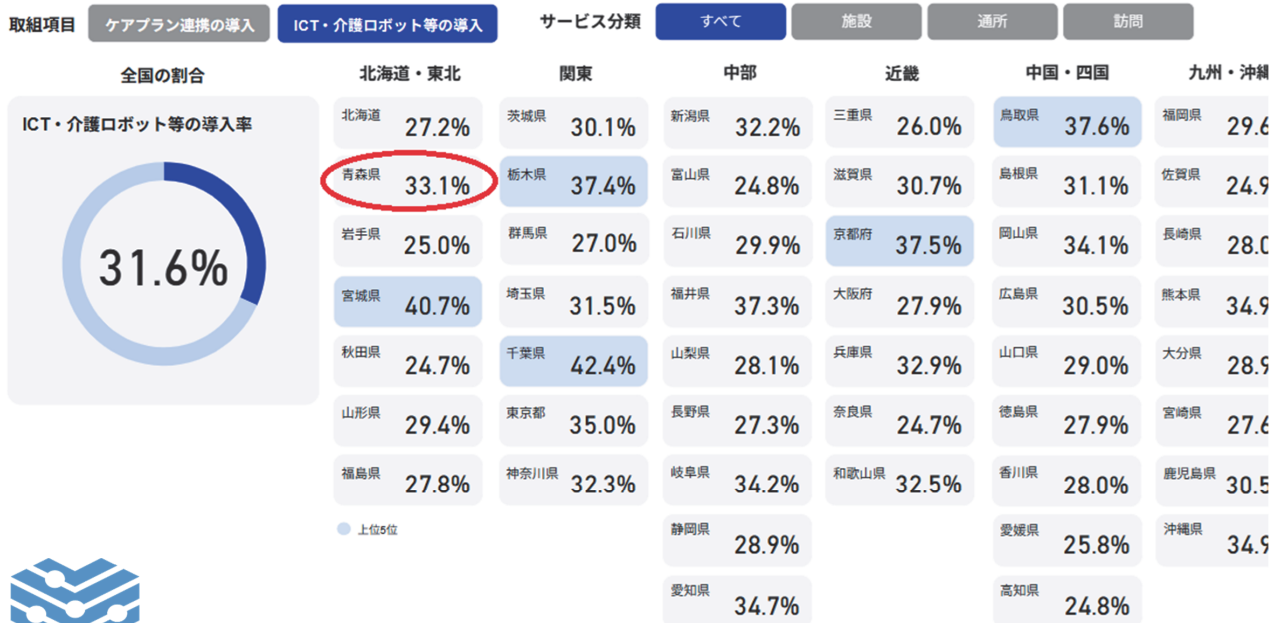


- ◇ 市町村
40市町村
- ◆ 県庁所在地
青森市
- ◇ 面積
9,646Km²(全国8位)
- ◆ 人口
1,184千人
- ◇ 高齢化率
35.2%
- ◆ 介護サービス事業所
2,025事業所



介護現場の生産性向上のための取組状況（都道府県別）

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare



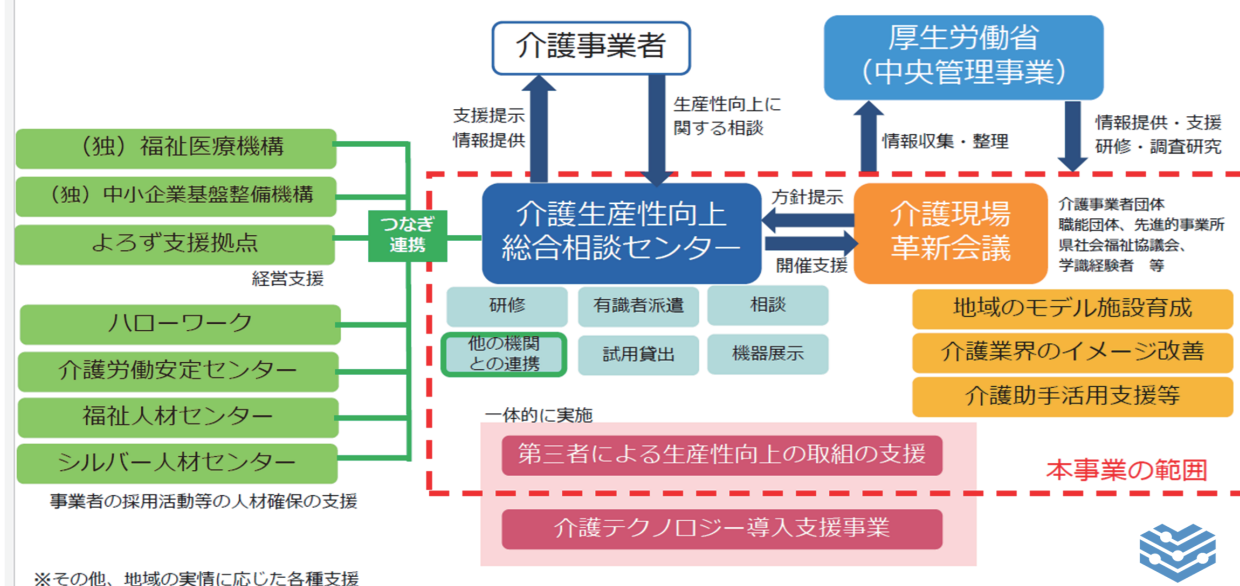
2024年8月末時点の値



本会の介護ロボット等の普及に向けた主な取組

時 期	事 業 名	内 容
2013年～	介護ロボット普及モデル事業(テクノエイド協会)	展示会・セミナー、試用と効果測定、導入研修
2014年	ロボット介護プロジェクト(経済産業省)	仲介者として6施設に見守りロボット26機器を導入
2015年～	地域医療介護総合確保基金による介護ロボット導入支援事業(後に青森県委託事業となる)	補助金交付による導入支援、効果測定
2016年	介護ロボット導入好事例表彰優秀賞受賞(テクノエイド協会)	
2020年～ 2023年	「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業」 介護ロボット相談窓口運営(厚生労働省)	介護施設・開発企業双方からの相談受付、展示、貸出、伴走支援など
2023年～	あおもり介護生産性向上相談センター(青森県より受託)	

介護生産性向上推進総合事業（具体的な事業イメージ）



あおもり介護生産性向上相談センター 令和5年オープン！

介護事業所の生産性向上(介護テクノロジーを含む)の取組を推進することを目的に、令和5年度に青森市に開設しました。

生産性向上の取組を支援することにより、介護サービスの質の向上と働きやすい職場づくりを支援します。



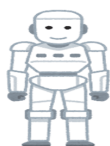
あおもり介護生産性向上相談センターの主な事業内容



①生産性向上に係る相談対応

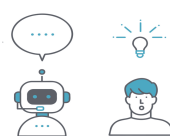


②事業所への伴走支援



③テクノロジーの常設展示

④巡回展示
(介護テクノロジー展)



⑤介護ロボット等試用貸出



⑥各種セミナーの開催

⑦補助金受付窓口



⑧アンケート調査
(取組定着・普及促進等を目的)

相 談

R6年度の相談件数 106件

主な相談内容	件数
介護テクノロジーの導入・活用	83
生産性向上・業務改善の情報収集	12
生産性向上・業務改善の具体的手法	24
生産性向上推進体制加算について	5
介護テクノロジーの試用貸出	24
利用可能な補助金について	13



～相談風景～



具体的な相談例 ～業務改善～



- ・業務改善に取り組みたいが何から始めてよいかわからない！
- ・テクノロジーも導入、介護助手や外国人材の活用もしているのに、思った以上に利用者とかかわる時間が取れない。改めて生産性向上に取り組みたい！
- ・職員のモチベーションが上がらない。意識を変えたい！
- ・課題がありすぎて整理できない！
- ・とにかく人手がいなくて忙しい！生産性向上迷子です！



具体的な相談例 ～テクノロジー関係～



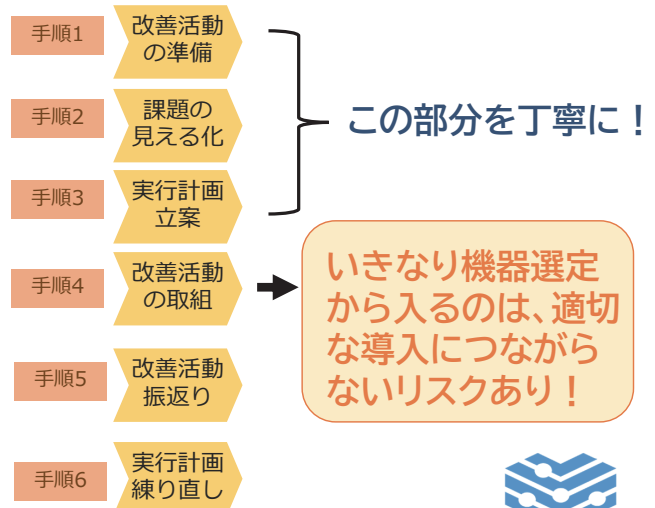
- ・どんなテクノロジーがあるの？
- ・どんなテクノロジーを導入したらよい？
- ・見守り機器、インカム、リフト、〇〇を導入したい！
- ・活用事例を知りたい(施設を紹介してほしい)
- ・テクノロジー導入しているが、活用できていない！
- ・導入がケアの質の向上につながるか不安！



当センターが支援で大切にしていること！

何のための業務改善？
何のためのテクノロジー？
目的は明確？
課題は何？
何を解決したい？
それは職員皆で共有してる？

生産性向上の取組み(改善活動)のステップ
(生産性向上ガイドラインより)



伴走支援



モデル事業所にアドバイザーとともにガイドラインに沿って伴走支援取組を通じて得たノウハウや経験を県内事業所へ横展開を図る



ワークショップで課題抽出



デモ機導入 通信環境チェック



現場の状況を聞き取り



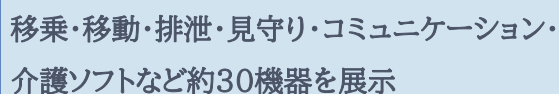
令和7年度伴走支援は募集中



令和7年度は下記のテーマを決めて伴走支援を実施する予定

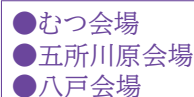
施設系サービス	在宅系サービス (訪問介護または通所介護)
「見守り機器」 「インカム」 「介護記録ソフトウェア」 3点を活用して業務改善を目指す事業所	「介護記録ソフトウェア」あるいは 「インカム、タブレット等情報端末」 を活用して業務改善を目指す事業所

【介護テクノロジー展】



県民福祉プラザ(青森市中央3丁目20-30)

弘前市・十和田市・むつ市・五所川原市・八戸市



出展申込みは
こちらから 



(8月20日×切)

- | | | |
|-------|--------|--|
| 弘前市 | 7月22日 | 弘前パークホテル 4Fラ・メリア
(弘前市北1条120) |
| 十和田市 | 9月10日 | サン・ロイヤルとわだ 2F東陽閣
(十和田市南10条3-77) |
| むつ市 | 10月21日 | むつグランドホテル 1F孔雀の間
(むつ市中央1-1) |
| 五所川原市 | 11月13日 | 五所川原市ふるさと交流センター 1F交流ホール
(五所川原市中央4-15) |
| 八戸市 | 12月2日 | 八戸グランドホテル 2Fグランドホール
(八戸市中央1-1) |

厚生労働省の「介護ロボットの試用貸出リスト」を基に試用貸出を実施



各事業所の課題に合致した介護ロボット等の導入を目的として、貸出のお取次ぎをしています。

貸出期間：原則2週間

メーカーの皆様には
令和7年度もご協力を
お願いします

介護テクノロジー一定着支援事業(県補助金)受付等



参考 R6スケジュール

9月中旬 ～10月中旬	申請受付
11月下旬	県より交付決定
2月下旬	実績報告締切
3月	確定通知・請求書受理・ 補助金交付

【令和6年度補助実績】

(補助上限を1,000万円として5分の4補助)

145事業所

補助総額 478,347千円

【令和7年度(当初)予算】

補助総額 491,000千円

あおもり介護生産性向上相談センターホームページ

事例紹介

Case study

働きやすい職場づくりを目指して、生産性向上（業務改善）の取組を進める事業所をご紹介します。



選ばれる施設になるために～生産性
向上の取組み～

介護老人保健施設しもだ



誇りを持って働く職場！介護DXで進
める生産性向上

特別養護老人ホーム寿幸園

当センターHPで、
伴走支援をした事業所も
含めた取組み事例を
紹介しています。



一度、ご覧ください！

選ばれる施設になるために～生産性向上の取組み～

介護老人保健施設しもだ



医療法人仁泉会 介護老人保健施設しもだ

所在地：青森県上北郡おいらせ町山崎2592番地7

開設：平成4年6月22日

利用定員：入所定員：50名 通所定員：100名

POINT

- 介護DXの推進による業務改善
- 情報共有の改善で業務効率アップ
- 「選ばれる施設」への成長と未来



介護テクノロジーの導入による業務改善の取組み

記録ソフトやインカムなどの導入

記録や計画作成業務の負担



ケース・リハビリ実施の

紙ベース記録が

250枚 → 0枚

紙使用枚数/月（入所施設）

ほのぼのTalk++（インカム）の導入

更に業務改善を進めるため、青森県社会福祉協議会による伴走支援を受け、現場の課題解決に向けた生産性向上に取組みました。

プロジェクトチームを編成し、課題を明確化するためのアンケートやワークショップを複数回実施。話し合いを重ね、「情報共有の不足」の改善に取組むこととし、インカム「ほのぼのTalk++」の導入を決めました。



情報共有の課題

内線電話による連絡が非効率

リアルタイムで情報共有ができない

課題解決のためにインカムを導入



現場の声

- ◆ 利用者の状況を共有できるので、より丁寧なケアができるようになりました。
- ◆ 職員の心と時間に余裕が生まれた、「何かにチャレンジしたい！」という意欲がわいています。



老健しもだにとっての生産性向上とは

「継続的に利用者様を受け入れていくための体制作り」です。職員がいなくてはサービスを持続することはできないので、働きやすい職場づくりを進めて「選ばれる施設」になる必要があると感じています。

業務改善をしたことで生まれた時間は、研修会参加や他施設の見学など、職員の将来に役立つような時間に当てていきたいと思っています。



誇りを持って働く職場！介護DXで進める生産性向上

特別養護老人ホーム寿幸園



社会福祉法人平元会 特別養護老人ホーム寿幸園

所在地：青森市高田字川瀬186-1

施設種別：ユニット型指定介護老人福祉施設

開設：昭和51年4月5日

利用定員：ユニット型施設98名 短期入所生活介護10名

POINT

- 夜勤負担の軽減と業務効率化
- 新技術導入の課題と対応
- テクノロジーを活かした職場環境づくり

見守りセンサー導入



1日の夜勤巡回

ケアの見直し後

1回の巡回3分×4回	12分/日	年間 584時間 短縮できる
12分×8人	96分/日	
		1日の夜勤で96分短縮

※他ユニットに巡回に行く時間で計画

これまで業務時間内に終わらなかったケア記録、書類整理、物品補充などの間接業務を見直し、入居者への直接的な関りが増えています。

勤を頼りにしたケア ▶▶ 根拠を基にしたケアへ



現場の声

居室の巡回の方法を見直し、時間にゆとりができました。利用者と直接かかわる時間が増え嬉しいです。以前は急変時の対応が不安でしたが、安心して業務ができるようになりました。

寿幸園の目指す生産性向上とは？



単にテクノロジーを導入して業務を効率化するだけでなく、テクノロジーを活用し、職員や利用者にどのようなメリットをもたらせるか、これからさらに検証が必要だと感じています。

より質の高いケアを提供し、職員が誇りをもって働ける職場環境の実現が私たちの目指す生産性向上です。



お わ り に

当センターでは今後も、
青森県内の介護事業所の生産性向上を推進し、
働きやすい職場づくりを支援します。
真にニーズに合った介護テクノロジーが現場に定着し、効果を
発揮できるよう、メーカーの皆様におかれましては
今後ともご協力をよろしくお願い致します。

ご清聴ありがとうございました